



HEHJ Newsletter

ハビタット・ジャパン ニュースレター



第20号 2011年1月発行

エベレストビルド活動報告@ネパール/ポカラ (10/2~8)

ネパール・ポカラ(Pokhara)で1週間にわたり開催された住居建築支援活動、「エベレストビルド」が10月8日、閉幕しました。エベレストビルドは、モンゴル・ブルースカイビルド(昨年6月開催)に続く、アジア太平洋地域では近年最も大きな支援プロジェクトの一つで、世界8カ国(日本、アメリカ、ニュージーランド、オーストラリアなど)から約500人が集結し、現地ボランティアを合わせ総勢約700人で、40軒のバンブーハウス(竹材住居)を建築しました。日本からは、アジアの海外ボランティアとしては最大の12名(社会人9名・学生3名)が参加。ニュージーランドチームと組み、2軒の建築に携わりました。(事務局・山本真太郎)



完成した家の前で(House No.13)

現地の住宅事情とハビタット

ネパールでは、1996年以降本格化した国内紛争の影響により国民生活が荒廃。紛争は2006年に終結したものの、いまだ多くの国民が朽木の柱にわら壁・茅葺き屋根を添えただけといった貧しい住環境で生活しています。

ハビタットは昨年、ネパールで2012年末までに更に5,000世帯の支援計画を発表。「エベレストビルド」は、その支援計画のスタートとして、また国内外の協力を呼びかけるため、開催されました。

エベレストの麓で、希望をたてる

日本からの参加者は、全40軒中のハウスNo.13 & 14の2軒を建築することに。今回、各国から参加したボランティアの希望もあって、国を越えたチーム編成での建築作業を行うことになり、ジャパンチームは各6名ずつに分かれて、ニュージーランドやネパールのボラ

ンティアと共に汗を流しました。

建築する家は、ハビタット全体でも珍しいバンブーハウス。基礎部分などを除く家全体の70%以上が竹で出来ています。竹は日本でも身近な素材ですが、それで家を建てるとなると話は別。壁に使う竹板を割る作業などは特にハードワークで、参加者は初日から最終日まで、カマヤミノを駆使しながら、竹板の不足で壁作りそのものをストップさせないよう、真剣な表情で作業を行っていました。

ニュージーランドのボランティアとの活



工費大りでセメントを塗る大書生

■参加者の声：ネパールでの1週間は、「今まで生きてきた中で一番充実した時間」でした。現地へ行き、実際に自分の目で見て、肌で感じたものは、今でもずっと頭を横切って消えません。帰国後、「もっとみんなが住みやすい世界を作る手助けが出来ないか」と考えるようになりました。ハビタットの建築活動参加は、本当に人生を変える経験になると思います。(会社員・大倉エリさん)

動は、初めこそ言葉の面などで不安もありましたが、次第に冗談を言い合ったり、片言でも日本語を教えたりするなど次第に笑顔が増え、打ち解けた雰囲気になりました。また、ホームオーナー家族も一生懸命作業に参加。その真摯な姿にみんなが励まされていました。

ネパール大統領が家族を祝福



大統領自らテープカット

最終日、閉幕式には、ラム・バラン・ヤーダブ(Ram Baran Yadav)ネパール大統領が来訪。「エベレストビルド」支援プロジェクトの成果に賛辞を述べるとともに、完成した家々を回り、玄関先でのテープカットを行いました。ホームオーナー家族は、終始緊張の面持ちでしたが、短い間でも、大統領自らが自分たちの新たな門出を祝福してくれていることに喜びを隠せない様子で、この盛大な1週間のラストにふさわしい感動の幕引きとなりました。



竹板を薄く割り整え、挟み込んで壁を作る



ハイチ大地震から1年：シェルター支援など本格化、コレラ予防支援も



スラム化が進む首都ポルトープランスの郊外(ゾランジュ)

20万人以上が犠牲となった大地震から1月12日で1年。現地では依然として100万人以上の人々がビニールテント等での生活を余儀なくされ、また被災者の周辺都市への移動に伴う移住地域のスラム化も進行するなど、住居問題は深刻さを増しています。このような中、現地で300人のスタッフを中心に懸命に続けられている支援活動についてレポートします。(事務局・山本真太郎)

シェルター建築、今月末にも2,000軒到達へ

ハビタットは被災直後から支援を開始。昨年4月からは簡易住居(シェルター)の建築に取り掛かり、12月、1,000軒目が完成しました。現在、カバレ市(Cabaret)やレオガン市(Léogâne)を中心に1日20軒のペースで建築、今月末には2,000軒に到達する見込みです。

ハビタットは、ハイチの復興について、5年間で計50,000世帯に対する支援を計画、2011年はシェルター建築を最重要課題と位置づけており、今年夏までに7,000軒の完成を目指しています。今後は、現地の拠点をさらに拡充、建築スタッフ数(現在約200人)の増員なども行いながら、現状では効果的な住居支援の展開が難しいとされる首都ポルトープランスなどへも活動を広げていく予定です。

ハイチは、地震以前から最貧国であることから、元々土地の権利関係があいまいな上、今回地震によって多くの人々が亡くなり、また移住も進む中、土地に関する係争が大きな問題となっています。今後、建築数の増加に伴い、こうした係争の解決を求められる場面も増え、支援が困難に直面する

場面も想定されますが、現地政府や国連、NGOなど関係機関と協議・連携しながら、着実に支援を進めていきます。

コレラ感染、死者3,500人以上。ハビタットも支援

また、被災地では、不衛生な環境が災いし、コレラ感染が急速に拡大。現地のスタッフにも行動制限を設けなければならないほど広がりを見せています。ハビタットは、その対策として、レオガン市などで、石鹼や漂白剤、マスクや手袋などを入れた感染予防キットの提供を開始、12月中旬までに750セットを配布しました。また、現地のネットワークを生かし、他NGOが主催する感染予防講習会への被災者の参加をサポートするなど、「建てる」という支援に活動を限定せず、被災者の生活再建に向けた努力を続けています。



建築が進むシェルター(カバレ市)



シェルターで生活する被災者家族

ハビびと

ハビタットの魅力は、「単に“与える”だけではない支援の仕組みです」。まっすぐな眼差しでそう語るの、ウィリアム・ペレラさん。現



在、福島県で語学研修や英国リゾート施設事業を手掛ける企業に勤務し、昨年4月には30代で部長に抜擢された。

イギリス生まれのウィリアムさんは、2001年

William Pereraさん 株式会社 プリティッシュ・ヒルズ

にJETプログラム(諸外国の青年を英語教師として日本の小中学校に招聘する政府の国際交流事業)で来日。群馬の幼稚園や小中学校で3年間英語を教えた。そこでハビタットの存在を知り、2002年、群馬JETのメンバーとして海外住居建築活動(GV)に初参加。「お金と時間を使ってかわいそうな人を助ける活動」と思って参加したGVだったが、現地の家族と一緒に家をつくる過程で、ハビタットの活動が「Give(与える)」ではなく「Exchange(交換する)」であることに気が付いたという。「実は助けられたのは私自身」、そう言えるほど大きく成長する機会になったと話す。「GVの良さを一人でも多くの人に経験してもらい

たい」との思いから、2度目のGVを企画しリーダーを務めた。日本でのチーム作りや現地とのスケジュール調整、資金集めなどは、外国人のウィリアムさんにとってハードルの高い経験だった。「でも、その時の苦労があったからこそ、今の自分があるんです」、そう語ってくれた。

現在、職場で日本の若者の成長に尽力する傍ら、GVがきっかけとなり大学院の通信課程で開発学を専攻している。「国際協力への関わり方は色々。もっともっと自分を磨いて、これからもハビタットの活動に貢献していきたいです」。そう話すウィリアムさんの表情には、社会貢献に対する真摯な思いがあふれていた。(事務局)



企業支援：日産プロジェクト in インド ～ホームオーナーストーリー～

日産プロジェクトの支援先の一人、K. Sarojaさん(60歳)は早くに夫を亡くし、現在、日雇い労働者の一人息子と一緒に、息子が稼ぐ月給3,000ルピー(約5,500円)を頼りに暮らしています。二人は長年に渡り、雨漏りのする16㎡程の狭いスペースの家に住んでいましたが、



現在の住まい K. Sarojaさんと新築現場

昨年4月からインド・チェンナイ郊外で行われている日産自動車支援による住居建築プロジェクト。今春3月末までに75軒の完成を目指し、12月現在、64軒が仕上げ作業の段階に入りました。入居の前に、家の完成、そして新生活のスタートを心待ちにするホームオーナー家族のこれまでの生活を追いました。(事務局)

状態がひどくなったため、州政府の支援を受けることを決意しました。

しかし、その州政府支援も、彼ら家族がきちんとした住環境を持つには十分ではなく、その一方で、他の財政支援を受ける当てもなく、途方に暮れていたところ、K. Sarojaさんはハビタットが実施する日産プロジェクトを知り、住居建築支援に申し込みを行いました。そして数度にわたる審査を経て、その願いは叶い、プロジェク

トが支援する75家族の一つに選ばれました。K. Sarojaさんはうれしそうにこう語ってくれました。「プライバシーがあって安心できる暮らしが出来ることを何よりうれしく思います。旧家にはなかったトイレがあって、そして雨、風を心配することなく息子と生活できる新しい家をありがとう。支援を頂いた皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。」現在、K. Sarojaさんの家の建築作業は最終段階に入っています。

企業支援：クレディ・スイスと国内修繕活動(10/16)

ハビタットと金融大手クレディ・スイス社とのパートナーシップに基づく「クレディ・スイス・チームビルド」。昨年に引き続き2回目となった今回も、学校法人アジア学院(栃木県那須塩原市)において支援活動を行ってきました。(事務局・山本真太郎)

クレディ・スイスチーム6名は、農業指導者を指す外国人を中心とした研修生が学び、共同生活を送るアジア学院にて、施設修繕活動を行ってきました。今回は、研修生の学習環境整備に貢献しようと、鶏舎と薪置き棚を建築。鶏舎(鶏が元気に育つための運動場部分)は昨年もチームが行った作業で、これが鶏の飼育に効果を挙げたことから、今年もさらに1軒建てることになったものです。

建築は、柱を立てる作業からスタート。しかし、前日の雨で地面がぬかるみ、思うように動けず悪戦苦闘。また、苦労の末になんとか入ったと思った柱も、柱同士の高さがバラバラ。穴をさらに掘ったり、柱を電気ノコギリなどで切ったりして少しずつ調整するなどした結果、フレームの構築まで完了させることができました。薪置き棚は、これから厳しい冬を迎えるにあたって、燃料や暖を取るための薪

を整理して保管する棚。電気ドリルなどを駆使して組み立てました。

参加メンバーの中には、「とても疲れましたが、充実した1日になりました。次回は何を作るのか楽しみです」と、すでに来年への意気込みを語ってくれるなど、楽しい社会貢献活動となりました。



海外建築ボランティア
個人参加者募集中!
With 地球の歩き方



2011年春も引き続き、タイ第二の都市、チェンマイで住居建築活動を行います。貧困や災害で苦しむ現地住民のために、その家族と一緒に協力して家を建てていきます。ワークは安全基準をクリアした建築現場のみ。ハビタットの現地スタッフが建築作業工程を詳しく説明しますので、建築経験や専門的なスキルは一切不要です!

ワーク以外には、現地の孤児院、幼稚園または小学校を訪問。異文化交流を行います。他にも、ハビタット

が支援するアジア最大級のコミュニティの見学訪問、現地文化に触れる市内観光、そしてワーク最終日には現地の家族やスタッフとのお別れパーティーの開催を予定しています。

異文化に触れながら、家を建て、世界の現状を学ぶ、そんな国際協力にあなたも参加してみませんか?(事務局)

◆◆◆ 出発日程 ◆◆◆

- ① 2月22日(木)～3月1日(木) (タイ・チェンマイ)
- ② 3月8日(木)～3月15日(木) (タイ・チェンマイ)

*詳しくはホームページをご覧ください!

学生支部13団体、ハイチ支援で全国一斉街頭募金（12/18～19）

1 2月18日、19日、冷え込む冬空の中、ハビタット・ジャパンの学生支部(CC&CClub)13団体が、全国で一斉にハイチ被災者支援街頭募金を行いました。東は千葉から西は大分まで、全国14カ所で延べ300人が参加。今もなお続くハ



イチの惨状を少しでも改善したい、そんな思いで何度も何度も声を枯らして呼びかけた結果、2日間で総額約100万円もの支援が集まりました。

今回企画を取りまとめた関西学院上ヶ原ハビタットの高佑太さん(関西学院大学社会学部3年)は、「すでに地震から1年。日本でも確実に薄れゆくハイチへの社会的関心を少しでも取り戻すことができればと思いました。実際に街頭に立ってみて、多くの方に『そういえばそんなこともあったな』と感じてもらえたという手応えがあります」と話してくれました。

1995年1月、高さんが学ぶ神戸もまた震災(阪神・淡路大震災)を経験。国内だけでなく世界中からの支援を受け、見事に復興を果たしました。あれから16年。「国は違っても支え合う気持ちを大切にしたい」、そんな思いを受け継ぎ、また賛同する全国の若い世代が、ハイチのために心を一つにした2日間でした。(事務局)

寄付・助成金リスト（2010.10.1-12.31）

みなさまのご支援は「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」実現のために使わせていただきます。ご支援ありがとうございました。(敬称略・順不同)

10/1	(特活) 国際協力NGOセンター	3,752
10/5	関西学院大学(上ヶ原ハビタット)	13,923
10/25	関西学院大学(Eco-Habitat)	100,006
10/25	中島 龍生	10,000
12/2	宗教法人カトリックイエズス会	20,000
12/8	立命館大学(Rits Habitat)	315,670
12/8	稲垣 寛樹	3,000
12/9	明治学院高等学校(オーリー祭実行委員会)	111,270
12/17	西那須野幼稚園	19,920

ハビビと集会・次回開催のご案内

- 日時: 2月22日(水) 19:30 -
- 場所: Ben's Café(高田馬場)
- ハビタットが行う活動紹介を含め、活動参加者や関心のある方が交流を行うカフェイベントです。



編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年はハイチ大地震に始まり、夏には世界各地で洪水が発生、自然の脅威に直面する年でもありました。ハビタットでは各国事務所が連携し、各地で被災者支援事業を実施してまいりました。そのような中、日本の皆様方から多くの心温まるご支援・ご協力を頂きましたこと、スタッフ一同、深く御礼申し上げます。また2010年は、ハビタットが1976年の団体設立以来積み重ねてきた住居建築・修繕活動において、40万軒目(受益者200万人以上)の適切な住まいを提供する節目の年にもなりました。ハビタット・ジャパンでは引き続き、世界と日本の橋渡しとなるようスタッフ一同精進してまいります。本年も、ご支援・ご協力の程よろしく願い申し上げます。(事務局)



ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン は、住宅を建てることでコミュニティを築く自立支援型NGOとして、これまで、人種、宗教、国籍に関係なく世界約100カ国で40万軒余の住宅建築支援を行ってきました。そして現在、世界中で21分に1軒のペースで住宅を建てています。

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-13-11 CHARI千駄ヶ谷401
Tel: 03-6459-2070 / Fax: 03-6459-2071
URL: www.habitatjp.org / Email: info@habitatjp.org

発行人: 小田 浩
編集人: 山崎頭太郎、高橋範子、山本真太郎

事務所移転のご案内

この度、当団体は2010年9月16日(木)より左記へ移転し業務を行うことになりました。今後ともより一層のご指導とご支援を承りますようお願い申し上げます。URL & Emailはこれまで通り変更ありません。

